

第3期

事業報告書

自 平成 31 年 (2019 年) 4 月 1 日
至 令和 2 年 (2020 年) 3 月 31 日

3.11 メモリアルネットワーク

共同代表 武田 真一

共同代表 藤間 千尋

<要旨>

3.11 メモリアルネットワークは、2017 年 11 月 17 日に発足した。2019 年 6 月の全体会を経て、会の目的を「東日本大震災の経験を根底に据え、教訓の伝承に関わる個人・団体・拠点施設が地域や世代を超えてネットワークでつながり、過去に向き合い未来へ備える意識を全国、世界と共有しながら、次のことに取り組む。一、災害で命が失われない社会の実現に貢献する 二、被災者や被災地域の苦難を軽減し、再生に向かうことのできる社会の実現に貢献する」と改定し、震災伝承、防災・減災活動の「連携、調整」「企画、評価」「人材育成」事業を実施してきた。

第 3 期は、岩手・宮城・福島各県から選出された理事による新体制となり、毎月の役員会や各プロジェクトでの検討もとに、3 県各地で会議や視察等の行事が開催された。また、広域連携の推進を目指し、新たに仙台に事務所を設置し活動の拠点とした。

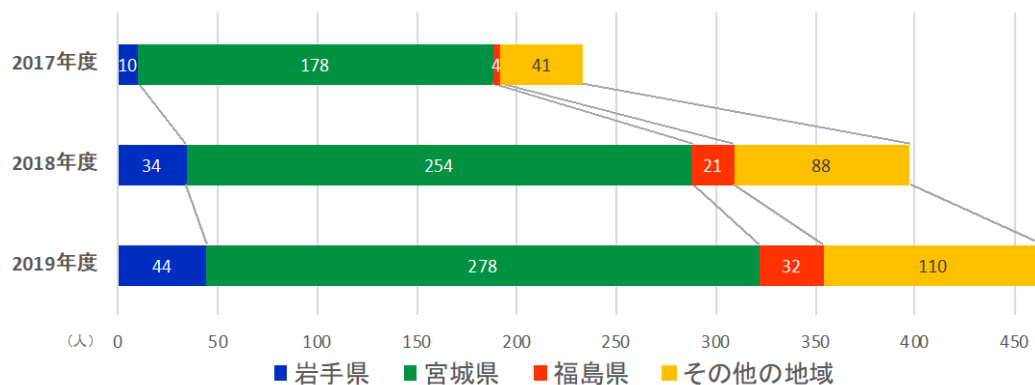
「東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト」より 3 年間（2019 年 1 月 1 日～2021 年 12 月 31 日）の支援を受けて「東日本大震災被災 3 県における震災伝承ネットワークの基盤構築・連携促進事業」を実施、ネットワーク基盤構築、伝承団体等との連携促進と事業力向上に取り組んだほか、3.11 メモリアルネットワーク基金への分担金をもとに団体助成プログラムも開始された。

<各事業の報告>

I 震災伝承、防災・減災活動の連携、調整

《会員》

- ・第 3 期は個人会員 70 名、2 団体が新規入会し、2020 年 3 月末時点で個人会員 466 名、登録団体 68 団体となった。個人会員は、地域別では、岩手県 44 名、宮城県 278 名、福島県 32 名、その他の地域で 112 名となっている。



地域別個人会員数（年度、地域別推移）

《全体会》

- ・第3期は全体会を計3回（岩手・宮城・福島で各1回）開催した。特に、岩手・福島では初の開催であったことから、通常の議事のほかに各県の会員に活動紹介をしてもらい、地域を超えて理解、交流を深める機会とした。

第8回全体会	2019年 6月15日	第2期事業報告・決算報告承認、規約改定、今後の活動計画、岩手県内の団体から活動発表	31名 参加	釜石市鵜住居公民館 (岩手県釜石市)
第9回全体会	2019年 11月10日	(仙台防災未来フォーラム参加と同時開催扱いとした)	-	仙台国際センター (宮城県仙台市)
第10回全体会	2020年 1月29日	第3期の活動状況報告、311MN基金助成事業の報告、アドバイザー選任、福島県内の団体から活動発表	33名 参加	とみおかプラス (福島県富岡町)

第3期 全体会

- ・全体会開催にあわせて視察を実施した。6月には、釜石市鵜住居地区のいのちをつなぐ未来館を見学するとともに、東日本大震災当時中学生だったスタッフの方に案内いただき、避難経路を視察した。1月には、富岡町3・11を語る会の協力により、東京電力福島第二原子力発電所内部、福島県立ふたば未来学園の校内の視察を行った。

第8回全体会に伴い実施	2019年 6月15日	いのちをつなぐ未来館、鵜住居小学校・釜石東中学校避難経路 (いずれも岩手県釜石市)	24名 参加
第10回全体会に伴い実施	2020年 1月29日	東京電力廃炉資料館（福島県富岡町）、東京電力福島第二原子力発電所（福島県楢葉町）	25名 参加
	2020年 1月30日	福島県立ふたば未来学園（福島県広野町）	18名 参加

第3期 全体会に伴い実施した視察



釜石市で行われた第8回全体会（2019/6/15）



いのちをつなぐ未来館の視察（2019/6/15）



富岡町で行われた第10回全体会（2020/1/29）



東京電力福島第二原発の視察（2020/1/29）

《役員会》

- ・役員会は、毎月 1 回、計 12 回開催した。ネットワークの目的や活動方針に関する議論を深め、JT 助成「東日本大震災被災 3 県における震災伝承ネットワークの基盤構築・連携促進事業」に関連し、団体の基盤構築につながる広報、活動報告会等行事实施について具体的な検討が進められた。
- ・役員会は、通常、仙台事務所で実施しているが、広域化に伴う措置として、毎回オンライン参加も可能としており、活用されている。また、会員・アドバイザーは事前に申し出をすれば誰でも傍聴可能としている。
- ・2020 年 2 月に役員合宿を行い、第 4 期の年間計画や「東日本大震災被災 3 県における震災伝承ネットワークの基盤構築・連携促進事業」の実施などに関する踏み込んだ議論を行った。【JT NPO 応援プロジェクト】

《アドバイザー》

- ・2020 年 3 月末時点でアドバイザーは 9 組織となっている。前期から継続は、復興庁宮城復興局、宮城県震災復興・企画部震災復興推進課、石巻市、仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室、南三陸町、復興庁岩手復興局、東北大学災害科学国際研究所の 7 組織。第 3 期には、各地の理事の協力により、行政機関を含む地域関係者との関係づくりが進展し、新たにいわき市市民協働部地域振興課、大槌町文化交流センターが選任された。
- ・会員、アドバイザーの間で連絡、情報共有を行うためのメーリングリストを設置、管理し、随時、双方向に情報を交換できるようにしており、今期は 112 件の利用があった。

II 震災伝承、防災・減災活動の企画、評価

- ・第 3 期は、会員有志による「プロジェクト」として、「まなびあい交流プロジェクト」「若者プロジェクト」「シンポジウム開催プロジェクト」が活動が展開された。

《まなびあい交流プロジェクト》

- ・まなびあい交流プロジェクト（旧：質の向上プロジェクト）では、伝承に携わる被災各地の会員同士での学び合いを目的とする活動で、第 3 期はツアー 3 回と企画シンポジウム 1 回を実施した。7 月には福島、12 月には岩手でまなびあいツアーを開催し、宮城県以外に活動が広がった。
- ・11 月にはシンポジウム形式での行事開催、2020 年 1 月には「福島の生活者の率直な声を聴く」というコンセプトで個人宅でお話を聴く企画が行われるなど、年間を通じて、地域的な広がりを伴いながら、多様な学び合いのあり方が模索、実践されてきた。

2019 年 7 月 27- 28 日	1 日目) リプルン福島→中間貯蔵工事情報センター、東京電力廃炉資料館、ふたばいんふお[交流会]／2 日目) 富岡町内視察、双葉町ふれあい広場、震災遺構・浪江町立請戸小学校（ガイド：和泉亘氏）、「浪江まち物語つたえ隊」絵おと芝居、大熊町内視察、ふたばいんふお[ふりかえり会]（全体を通じたガイド：里見喜生氏、鈴木亮氏）	14 名 参加
2019 年 11 月 30 日	企画シンポジウム 広島にまなぶ「伝承者を育てる」（会場：東北大学災害科学国際研究所、宮城県仙台市） 「被爆体験伝承者」及び「被爆体験証言者」養成研修に参加して（佐藤翔輔	50 名 参加

	氏)／被爆体験伝承講話(戸野弘幸氏)／総合討論(菅原定志氏、吉田美穂氏、三浦美咲氏、黒澤健一氏)	
2019年 12月15日	東日本大震災津波伝承館(いわて TSUNAMI メモリアル) 自由見学、陸前高田市内視察(ガイド: 佐藤彰氏)、「陸前高田市思い出の品」見学、ふりかえり会	11名 参加
2020年 1月30日	個人宅でお話を聴く会(話し手: 佐藤龍彦氏、金井直子氏)、ふりかえり会	14名 参加

第3期 学びあい交流プロジェクト行事



福島まなびあいツアー 請戸小学校 (2019/7/28)



広島にまなぶ「伝承者を育てる」(2019/11/30)

《若者プロジェクト》

- ・若者プロジェクトでは、被災各地で震災伝承に取り組む若手のメンバーが集まり、伝承活動のきっかけや思い、課題などを個別の発表やクロストーク(座談会)を通じて発信し、交流する機会として「若者トーク」が継続されており、第3期は、3回開催された。
- ・12月に仙台で行われた「若者トーク Vol.8」では、岩手・宮城・福島の3県の若者が集まり、発表と座談会が行われ、またプロジェクトメンバーの若者が座談会の進行役を務めるなど、地域的な広がりやメンバーのスキルアップが確認された。
- ・また、第3期は新たに「メディアコラボ」の企画が生まれ、「みやぎ災害とメディア研究会」と共同で11月に実施された。語り部とメディアが、互いに震災を伝える立場として問題意識を共有して、建設的な議論を続けていくための土壌として、今後の継続が期待される(2020年2月頃に実施予定だったが、新型コロナウイルスの影響で延期となった)。
- ・8月には東京で「若者トーク Vol.7 in TOKYO」が行われ、東北出身在住の若者・東北出身関東在住の若者・関東出身在住の若者がそれぞれの視点から「あの日のいろんなこと」を語り合い、首都圏の参加者にも発信することができた。【JT NPO 応援プロジェクト】

若者トーク Vol. 6	2019年 5月2日	若者が個人発表、グループディスカッション	KIBOTCHA (宮城県東松島市)	25名 参加
若者トーク Vol. 7 in TOKYO	2019年 8月11日	東北、関東の若者がそれぞれの立場から個別発表、クロストーク	JT 東京研修 センター(東京都)	80名 参加
メディアコラボ Vol. 1	2019年 11月23日	メディア関係者と若者の発表、グループディスカッション(「みやぎ災害とメディア研究会」との共同企画)	enspace (宮城県仙台市)	44名 参加
若者トーク Vol. 8	2019年 12月22日	3県の若者が個人発表、クロストーク	仙台市戦災復興記念 館(宮城県仙台市)	40名 参加

第3期 若者プロジェクト行事



若者トーク in TOKYO (2019/8/11)



若者トーク Vol.8 (2019/12/22)

《シンポジウム開催プロジェクト》

- ・シンポジウム開催プロジェクトでは、2020年3月、大船渡市民交流館カメラアホールにて「つながろうひろげよう」をテーマに第3回伝承シンポジウムを実施するために、メンバーで打ち合わせを重ね準備を進めていたが、新型コロナウイルスの影響でやむなく中止となった。



第3回
伝承シン
ポジウムチラシ

《アンケート》

- ・2020年2月に会員へWEBフォームによるアンケートを実施し、3.11メモリアルネットワークの行事への参加や希望などについて意見を募集し、その結果は次期の活動計画検討の際に活用された。
- ・2020年3月末、新型コロナウイルスの感染拡大と社会的な影響が大きくなり、会員からも伝承活動に支障が出ているという報告を受けて、「新型コロナウイルスの震災伝承活動への影響に関する緊急アンケート」を実施した（集計、発表は第4期）。

《広報》

- ・第3期は、JT助成「東日本大震災被災3県における震災伝承ネットワークの基盤構築・連携促進事業」の一環として、3.11メモリアルネットワークの支援者増加を目指した情報発信情報発信と広報基盤の整備に取り組んだ。
- ・9月にリニューアルしたWEBサイトを公開、「支える」「学ぶ」「伝える」のメニューを設置し、会員をはじめ多様な関心層が震災伝承やネットワークの会員の活動にアクセスできるようにした。今後、一環して安定的に情報を発信していけるように、ブログや語り部、プログラム等紹介のコーナーを作成、2019年秋頃より情報掲載のための取材を行い、2020年2月には、「会員インタビュー」の連載企画が開始した。また、WEB問い合わせフォームで一般の方から直接問い合わせも受けられるようになり、WEB入会フォームから入会してもらえるようになった。【JT NPO 応援プロジェクト】
- ・3.11メモリアルネットワークについて多くの人に知ってもらうための団体リーフレットを制作し、11月より配布を開始した。【JT NPO 応援プロジェクト】

- ・震災伝承ネットワークの活動を周知し、理解してもらうきっかけとする目的で、会員や役員の撮影協力を得て PR 動画を制作し、2020 年 2 月より公開している。【JT NPO 応援プロジェクト】



WEB サイト（会員インタビュー）

団体リーフレット

PR 動画

《活動発信機会》

- ・9 月に東京の JT 本社ビルで、企業／一般向けにネットワークの活動報告会を開催し、企業・行政・教育・メディア・一般の方約 50 名が参加した。日本 NPO センターの協力を得て企画・調整を行い、全体の説明と 3 県で伝承活動を行う 4 名の発表を通じて、伝承活動の意義と広がりを発信できた。【JT NPO 応援プロジェクト】
- ・英語でネットワークの活動を紹介するポスターを制作し、2020 年 1 月に神戸で行われた「世界災害語り継ぎフォーラム」で展示、発表を行った。【JT NPO 応援プロジェクト】



活動報告会 in 東京（2019/9/3）

活動報告会チラシ

英語ポスター

- ・11 月「仙台防災未来フォーラム」にて「3.11 何をどう伝え継ぐか～ネットワークによる伝承の未来～」のテーマで発表を行った。岩手・宮城・福島で伝承活動を行う 3 名がゲストとして発表、パネルディスカッションを行い、訪れた人に各地の伝承活動事例とネットワークの重要性を伝えることができた。【JT NPO 応援プロジェクト】



仙台防災未来フォーラム発表（2019/11/10）

Ⅲ 震災伝承、防災・減災人材の育成

《活動を通じた育成》

- ・全体会や視察、まなびあい交流プロジェクト、若者プロジェクト、その他行事等への三角により、会員各自の情報や知識、スキルの共有、関係性構築の機会が生まれた。
- ・特に若者プロジェクトでは、若者同士の交流、「若者トーク」の積み重ね、災害ボランティアの経験等を経て、第3期は外部団体との協働による新たな企画が生まれており、着実にステップアップしている。

《3.11 メモリアルネットワーク基金へのご寄付募集》

- ・人材育成の資金的基盤として、3.11 メモリアルネットワークの目的に沿った活動を支える目的で設置された「3.11 メモリアルネットワーク基金」の寄付募集を行った。（寄付金は、公益社団法人 3.11 みらいサポートで管理され、有識者で構成される外部委員会の審査を経て、未来の命を守る東北各地の団体の伝承事業に対して助成される。）
- ・第3期は、「JT NPO 応援プロジェクト」より助成された 1000 万円を、3.11 メモリアルネットワーク基金へ基金分担金として寄付した。それをもとに、11 月に「3.11 メモリアルネットワーク（JT NPO 応援）基金 第1次募集」が行われ、岩手・宮城・福島の3県で伝承に取り組む 13 団体への助成が決定した（2020 年 4 月より助成事業開始）。【JT NPO 応援プロジェクト】
- ・WEB サイトや Yahoo!JAPAN ネット募金ページで継続的に広報をしながら、様々な機会に企業や個人への個別の寄付のお願いを実施し、新たな寄付者の獲得に努めた。2020 年 3 月末時点で、指定寄付口座へのご寄付総額（マンスリーサポート含む）が 8,846,109 円、Yahoo!JAPAN ネット募金へのご寄付総額が 3,708,145 円（14,211 人、継続寄付者 42 人）となっている。
- ・個人の寄付に加え、JT NPO 応援プロジェクトをはじめ、成田ライオンズクラブ、埼玉県坂戸市中央第3地区民生・自動委員会、DHL サプライチェーン株式会社等から大口の寄付をいただいた。また、Yahoo!JAPAN の「検索は応援になる」から 416 万円が基金への寄付された。
- ・Yahoo!JAPAN ネット募金でライオン株式会社とサントリー株式会社が、引き続きパートナー企業として「くじ付き募金」へ商品を提供してくれた。

Ⅳ その他この会の目的を達成するために必要な事業

- ・新聞等の取材対応、雑誌への寄稿、講演依頼への対応を通じて 3.11 メモリアルネットワークの活動の広報を行った。

2019 年 4 月	毎日新聞	「若者トーク」で震災伝承 阿蘇の灯メンバーにも参加
2019 年 5 月	毎日新聞	伝承活動の若者が「震災 10 年」見据え目標語り合う 東松島
2019 年 5 月	河北新報	〈語り部活動〉思いを共有 東松島で「若者トーク」
2019 年 6 月	河北新報	〈ふみだす info〉震災伝承に力を メモリアルネット寄付募る

2019 年 6 月	岩手日報	震災伝承へ 3 県連携 3・11 メモリアルネットワーク
2019 年 6 月	河北新報	「3 県で経験共有」メモリアルネット全体会 活動確認
2019 年 8 月	NHK	大川小で被災 都内で経験語る
2019 年 8 月	仙台放送	被災地の若者が伝える“あの日と今”東日本大震災から 8 年 5 ヶ月
2019 年 9 月	仙台放送 (FNN)	新たな災害に向き合うために…東日本大震災を経験した立場の異なる 若者たちの共通の思いとは?【前半／後半】
2019 年 9 月	河北新報	被災 3 県の語り部ら課題訴え 「3.11 メモリアルネットワーク」東京で 活動報告会
2019 年 11 月	NHK	震災をどう伝承 被災地に学ぶ
2019 年 11 月	河北新報	震災伝承メディアと議論 若手語り部ら問題提起
2019 年 11 月	毎日新聞	こちら仙台支局！若者とボランティアで汗／上 初心者に作業手順丁寧 に
2019 年 11 月	毎日新聞	こちら仙台支局！若者とボランティアで汗／下 つながる復旧と震災 伝承
2019 年 12 月	河北新報	伝承者育成、広島に学ぶ 仙台で原爆や震災の悲惨さと教訓伝えるシン ポ
2019 年 12 月	朝日新聞	震災の伝承 広島に学ぶ 仙台でシンポ
2019 年 12 月	NHK	被災 3 県の若者ら体験と今を語る
2019 年 12 月	朝日新聞	なぜ震災伝える 3 県の若者語り合う
2019 年 12 月	仙台放送	「あの日のこと、あれからのこと」被災 3 県から集まって若者トーク〈仙 台〉
2020 年 1 月	公明新聞	若者目線で伝える 3・11 被災 3 県の語り部がトーク集会
2020 年 2 月	河北新報	水害メカニズム学ぶ 災害とメディア研 丸森など視察
2020 年 2 月	仙 台 放 送 (FNN)	東日本大震災からまもなく 9 年 「当たり前が奪われた日」経験した若 者が“いま伝えたいこと”【前半／後半】
2020 年 3 月	仙台ぱど	語り継いでいくこと 語り部をする若者たち 3.11 メモリアルネット ワーク
2020 年 3 月	エフエム仙 台	Date fm「サバ・メシ防災ハンドブック 2020」
2019 年 4 月	毎日新聞	「若者トーク」で震災伝承 阿蘇の灯メンバーらも参加
2019 年 5 月	毎日新聞	伝承活動の若者が「震災 10 年」見据え目標語り合う 東松島

第 3 期 メディア掲載情報一覧